

第165回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成25年2月)

2013.2.27

株式会社 岩手朝日テレビ

第165回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成25年 2月27日(木) 11時～
2. 開催場所 岩手朝日テレビ3F大会議室
3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 6名

委員長	村田久
委員	そのだつくし
委員	田口幸雄
委員	大見山俊雄
委員	畠山さゆり
委員	小松豊

欠席委員数 1名
委員

小田島利昭

会社側出席者名

専務取締役	辻一成
取締役報道担当	小椋和雄
取締役	長生正広
報道制作局長	佐々木貴
報道制作局部長	伊波伴准
番組ディレクター	丹野尚子
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	柏葉智
番組審議会事務局	佐野尚

4. 議 題

(1) 合評番組

「テレメンタリー2013 岐路に立つ王国～揺らぐ政界地図」
放送日時：1月5日(土)16時55分～17時25分

(2) 3月単発番組及び2月の視聴率について

(3) 次回審議会

開 催 日：平成25年 3月28日(木)午前11時～
岩手朝日テレビ 3F大会議室

合評課題：「IATスーパーJチャンネルスペシャル 震災から2年
～被災地の今とこれから～」

放送日時：3月11日(月)16時54分～17時54分

5. 概 要

- * 柏葉事務局長より3月の単発番組と2月の視聴率の内容が発表された。
- * 合評課題は「テレメンタリー2013 岐路に立つ王国～揺らぐ政界地図」。
- * 政治家・小沢一郎をテーマにした難しい作品だが、大きく偏ることなく上手に取りまとめた印象だった。
- * 反小沢の議員や被災地の住民のインタビュー多く取り入れることで、小沢氏の政治基盤である岩手でも、その影響力に陰りが見え始めているのが良く分かった。
- * 親小沢・反小沢の説明を図解など用いたため分かりやすく、小沢氏や選挙をあまり知らない人にもよく理解が出来た。
- * 静かなBGMやナレーションが番組全体を引き立てていて良かった。

6. 議事の内容

- 柏葉事務局長) それでは、只今より、第165回岩手朝日テレビ放送番組審議会を始めます。本日は社長の富永が欠席しています。それでは村田先生、議事進行をお願いいたします。
- 村田委員長) 今日は社長が不在ということですが、議事を始めたいと思います。
- 辻専務) 今日は社長が失礼をしております。後程編成担当から2月の視聴率の報告があると思いますがおかげさまで2月の視聴率も好調でして、全日・ゴールデン・プライムが2位ということで1位と僅差で2位を安定的に取れてきたのかなと思っています。今期の売り上げ見込みですが、上期が前年比を大きく伸ばしました。下期も第4四半期が昨年の好調さもあり1～3月が若干前年比並みにいきそうですが、通期だと2桁の伸びを間違いなく確保できると思います。
弊社開局以来の新記録は間違いなく確保できると思います。引き続きご指導をお願い致します。以上です。
- 村田委員長) ありがとうございます。それでは3月の単発番組と2月の視聴率の説明をお願いします。
- 柏葉事務局長) まず、3月の単発番組です。3月2日からいよいよ侍ジャパンが3連覇に向けて戦うワールドベースボールクラシックが始まります。テレビ朝日系列では3月2日(土)のブラジル戦を皮切りに、3日(日)・8日(金)・11日(月)・そして20日(水)の決勝を放送します。
その他のスポーツ単発では、3月23日(土)・24日(日)の2日間、「T-POINTレディースゴルフ2013」をお送りします。そして、3月26日(火)はサッカーワールドカップアジア最終予選「ヨルダンVS日本」をお送りします。この試合に日本が勝てばワールドカップ出場が決まります。
3月11日は東日本大震災から2年になります。テレビ朝日系列では10日(土)14:00～18:00「つながろう!ニッポン」を、11日(月)13:55～16:54「ANN報道特別番組スーパーJチャンネルスペシャル」をお送りします。「つなが

ろう！ニッポン」ではナビゲーターに中村雅俊を迎え、視聴者から反響を呼んだ「復興を見つめて」で陸前高田市の復興の記録を特別編として放送します。

また、「ANN報道特別番組 スーパーJチャンネルスペシャル」では、各地の追悼イベントや黙とうの様相を伝えるとともに、震災から2年がたった今でも復興が進まない現実をIATをはじめ被災地の局のこれまでの取材をベースに伝えていきます。そして、IATではこの「ANN報道特別番組」のあとに16:54~18:55「IATスーパーJチャンネルスペシャル 震災から2年~復興へ向けて~」をお送りします。番組では、被災者の思いや仮設住宅生活を続ける人たちの声、沿岸各地の首長が考える街づくりや県・国への要望を聞きながら復興に対する課題を検証します。

また、30日(土)10:50からは「ビリーブ ~それぞれの復興~」をお送りします。復興という長い道のりの中で、被災地の方々が今どんな思いで、何を考え、そして未来をどう見つめているのか。番組では厳しい状況に置かれる中で復興に向けて懸命に生きている方々や、日常を奪われてつらい気持ちながらもゆっくりと歩む方々を見つめ、忘れてはならない被災地の姿を追います。是非ご覧ください。

その他の自社制作番組ですが、3月2日(土)15:25から「IATジュニアカップ」をお送りします。1月27日(日)に安比高原スキー場で行われた第1戦、2月10日(日)に八幡平リゾートパノラマスキー場で行われた第2戦の様相をダイジェストでお送りします。

次に、2月の視聴率についてです。ご覧のように全日 7.9%、ゴールデン 13.1%、プライム 12.7%、プライム2 7.6%となり、全日、ゴールデン、プライムともに2位を獲得しました。また、プライム2は46か月連続1位を継続中です。2月も、御覧のように2時間スペシャル、3時間スペシャルの多い週でしたが、4日(月)19:00からの「お試しかっ!3時間スペシャル」が17.4%、5日(火)19:00からの「ロンドンハーツ3時間スペシャル」が17.4%、9日(土)19:00からの「関ジャニの仕分けエイト 2時間スペシャル」が16.0%、17日(日)21:00からの「必殺仕事人2013」が18.5%と高視聴率を上げ、また、ドラマ「相棒11」が18.2%、1月スタートドラマ「科捜研の女」が17.9%と高視聴率をキープしてくれたおかげで、ゴールデン・プライムいずれも2位を獲得できました。

ただ、視聴率表の右側にありますHUT、これは調査対象となる世帯全体で、どのくらいの世帯がテレビ放送を放送と同時に視聴していたのかという割合のことですが、御覧のよ

うに先月比・前年同期比ともに大幅に数字を落としました。その為各社視聴率も落ち、IBC、TVI、MITの全日視聴率は、IATが開局して以来過去最低の視聴率になりました。2月は通常、在宅率が高く、HUTが上がるのですが、今年の2月は大幅に下がっています。

原因としては、デジタル化でテレビ視聴環境が変わり、ハードディスクへの録画視聴が増えていること、見たい番組を見たいタイミングでといった多様な見方が広がっていることが考えられます。これは全国的な傾向で民放各社は危機感を募らせています。

3月の単発と2月の視聴率については以上でございます。

村田委員長) ありがとうございます。みなさんから何かございますか。

田口委員) 前にも話しましたが、2時間や3時間スペシャルの割合が増えてますよね。以前はどんな編成だったのでしょうか。

柏葉事務局長) それぞれの番組がレギュラー編成をされているものの長尺ものになっています。「お試しか！」は月曜午後7時から、「Qさま」は月曜午後8時からと編成されていますが、その長尺番組を放送しています。最近の傾向ではレギュラーの編成が少なくなっています。視聴率を取るために番組を長尺にして視聴者を逃さないようにする傾向があります。

村田委員長) それでは合評課題に入りたいと思います。今日はテレメンタリーの「岐路に立つ王国」です。今日は大見山さんからお願いします。

大見山委員) 総じて言いますと、ストーリー性と構成が良くできているのが第一印象でした。ストーリー性という意味ではまず分裂構造から始まって、それを序章ととらえてその後の小沢氏の強みというのは、公共事業であり選挙対策だったと。ところが一方で小沢氏は「自分は郷土目線でがんばっている」というインタビューがあり、その反応として選挙に走りすぎて失敗したと。郷土目線という意味では被災地の切り口で小沢氏が郷里に入るのが遅かったと指摘しています。しかも滞在時間が短かった。そのことから小沢氏の郷土目線を否定しているシーンがストレートに心に入ってきました。最後には小沢

氏の支持者からも「小沢氏は反省すべきではないか」と批判されました。小沢王国が崩壊したという意味がストレートに入ってきた印象を持ちました。ナレーションも落ち着いた感じで良かったです。

ただいくつか気になる点がありました。ストーリーが勝者目線ではなかったかと。だから内容がストレートに入ってきたのか。今回取り上げてほしいとは言いませんが、一方で弱者目線を見たい、それについて小沢氏がどう反応するか聞いてみたくなりました。とにかく勝者の主張に沿った形だからストレートに伝わってきたのかと少々疑問に感じました。

他の点では、顔を出さない匿名のインタビューのシーンです。声も変えていたようですが、あのシーンだけ見ると誰なのか人物が特定できてしまうように感じました。あのようなインタビューをする場合は基準のようなものはあるのでしょうか。一方で方言の強い人がインタビューを受けるシーンがあって、字幕スーパーがついている人とついていない人がありました。私から言わせると方言が強いのに字幕スーパーがなく分かりづらいシーンがありました。以上です。

小松委員)

今回の合評課題ですが、私にとって批評しづらい政治の話。番組の構成よりも内容に入り込んでしまい、見終わってすごく難しいと感じました。丹野アナウンサーのナレーションは派手すぎず地味すぎず、番組全体を邪魔していなかったのが良かったです。題目の「岐路に立つ王国」ですが、本音を言うと「岐路に立つ小沢王国」だと思います。見終わってから視聴者に何を問いかけていいかということを考えてときに、一つの時代が終わったと問いかけていいのか、訴えたい部分は私には分かりませんでした。番組自体を評価しようとする小沢氏の評価になってしまいます。小沢VS民主あるいは黄川田の構図にどうしてもなってしまいます。ヒーロー小沢氏とみんなの味方・黄川田氏という内容ではなかったか。岩手は広いのもっと全体の構図、私は県北なので2区の取材がもっとあってもよかったと思います。

インタビューですが、問題がなければどの辺の地域で行ったものなのか分かるようにしてほしいです。連合会の会長さんのインタビューでは「小沢氏に滅私奉公した」というある種宗教的にさえみえるようなインタビューとは対照的に被災者の「何かをしてくれると期待したが、何もしなかった」とか「結局自分のことと選挙のことしか考えていない」といったインタビューがありました。対照的に表現することでより理解が深まりました。黄川田氏の真剣な取り組みや選挙活動を手伝った次女の一生懸命な姿が心を打ちました。

そのだ委員)

私も政治には疎いので批評しづらかったです。結局小沢氏がいい人なのか悪い人なのか分からなかったです。黄川田氏にスポットが当たりすぎていて、黄川田氏に同情しなければならぬのかという印象でした。図解による説明は分かりやすく、小沢氏の後援会はカースト制度のような構図でした。被災地のインタビューがほとんどでしたが、内陸の人は小沢氏の態度をどう思っているのか。小沢氏に対してひどい発言もあったと思うが、そういう意見を入れても良かったのではないかと。達増知事も出すぎに感じました。ただ選挙に対するいろいろな流れ・ストーリーが素人の私にも分かりやすかったです。小沢氏にこれからどうしてほしいのかといった問いかけるシーンがほしかったです。

田口委員)

私もコメントしづらく感じました。なぜこの題材を選んだのか後で聞いてみたいです。番組全体としては見ごたえがありました。達増知事の小沢氏に対する強い肩入れ、それに対して衆議院議員の階氏・黄川田氏といった小沢氏とたもとを分けた議員、それと被災地の住民。小沢氏とたもとを分けた人々にスポットを当てることで対照的構図が見え、分かりやすかったです。25分の中にこの内容をよくまとめたなど。ただ反小沢の人たちの声を拾いすぎてはいなかったかと感じました。親小沢の人たちの声も番組内に入れて公平性を保つことも必要。震災を契機に強固だった小沢王国が崩壊して政界地図が大きく変わりました。その転換点を取り上げることに意味があるとしてこの番組を作ったのか。後で担当者に聞いてみたいです。

畠山委員)

よくこの題材を取り上げたなど。短い時間でまとめるのは大変だったと思うし、シリーズ化で見たいです。小沢氏の政治家歴はすごく長く、評価する人はします。地元岩手では全国で自民が大勝しても民主が勝ったりする地域です。小沢王国が崩壊したと仮定するならば、シンパである達増知事らはどうなるのかと県民は思っています。陳情に行っても自民や民主から挨拶されないという話も聞こえてきます。小沢氏が崩壊したのか、そうではないのか、私たち一般人は知りたいと思います。岩手の人たちにとって小沢氏は愛憎の対象。本人の全くと言っていいほど伝わってこないという珍しい政治家です。よって小沢氏がどう考えているのかが聞きたかったです。テーマに取り上げる人としてこんなにもいい題材の人

はいないので、いろいろなしがらみはあるかとは思いますが、掘り下げてシリーズで見たいです。暗いBGMと丹野アナウンサーのナレーションがとても良かったです。

村田委員長)

ありがとうございました。私は初めこの番組を見た時、よくこの題材を取り上げたなと思いました。正直、制作も合評するのも難しい番組です。「岐路に立つ」と題名にあります。小沢氏やそのとりまきの人たちが岐路に立っているのもあって、多くの県民にとっては関係のないこと。そういった面でも制作側にとって難しい内容ですね。岩手から選ばれた小沢一郎という国会議員が小沢王国を作る過程、地域住民とのかかわりがすごく分かりやすく説明されていた。政治を題材にした番組はややもすると偏見になりがちになるが、今回の番組はそのあたりも配慮しつつギリギリのところで作られたものだと感じました。例えば小沢氏本人のコメントなどは絶対に取れないし、奥さんや周りのブレンもしかり。しゃべってもおそらく顔は見せないし、声も変えることになると思います。小沢王国が岐路に立っているということですが見方によっては崩壊の道をたどっていると見る側は分かっています。

番組を改めて見直すと小沢王国とは何だったのか、小沢王国というフレーズは政治家だけの言葉であって、私たち県民からすると関係のないこと。そういった冷めた目があります。震災からの復興時に言われたのが、なぜ小沢一郎は被災地に来ないのか、一番最初に来て意見を聞いて歩くのが本当の姿ではないのか、それが小沢王国ではないのか。そういう観点から見るとこの番組は作られて良かったと思う。見る側の考え方はいろいろあると思いますが。私たちが政治とどう向き合っていけば良いかこの番組を見て考えさせられました。震災からの復興はまだまだ先のことで、そこに黄川田氏といった反小沢氏が現れて、一つの番組形成をなしています。震災が起きてそれを契機に政治とはどうあるべきか私たちは考えさせられました。そういう意味でいい番組だと思います。委員の方々の一致した意見は、丹野アナウンサーの淡々としたナレーションが評価されたこと。この番組で限って言えば、ある意味救われました。私からは以上です。他に言い足りないことはございますか？

大見山委員)

今回この番組を作ったタイミングは先月の選挙を見ながら行ったものですか？

佐々木
報道制作局長)

選挙戦が終わってすぐにやらないと番組の意味がないと思っています。一方で3月や4月に放送すると夏の参院選に影響があるので、やるとすれば選挙戦が終わった翌週か、翌々週あたりかなど。初めからそういう考えでした。取材は解散前からやっていました。

大見山委員)

ということは、ある程度ストーリーは決まっていたんですか？

小椋取締役)

たぶん今回の衆院選では民主党は惨敗するだろうと予想はしていました。では惨敗の原因は何かと考えた時、国会議員は公僕の代表で、そのため一生懸命働かなければならない人が、震災直後しばらく被災地入りしなかったという行動を小沢氏がとってしまったこと事態が県民の心が離れるきっかけになるだろうと想定して取材をしていました。先ほど村田委員長がおっしゃったディレクターの丹野としてはもっと内容を掘り下げたいという気持ちはあったが、そこは自重しないと。小沢氏は落選することはありえないので、彼が国会議員でいる限りはあまり突っ込みすぎると弊社も良いことは無いと思うので。

村田委員長)

この番組を作ろうとしたきっかけは？

佐々木報道制作

局長)

岩手にとって良くも悪くも小沢氏は大政治家であって、小沢氏の番組は県内ではあまり見たことがないです。大概は対談番組とか、岩手日報の記事だったりとか。小沢氏をしっかりと見つめた番組がないなと感じていました。ただ本人を取材できる状況にはないと同時に思っていました。震災が起きて小沢氏がしばらく県内入りしないとか、本来ならおらが政治家としてもっと地元に貢献してくれるような政治活動をすべきなのに、いわゆる政局、勝手に民主党をやめてしまうなどの行為をし続けたことで、その姿を見て有権者と小沢氏との乖離というものがあるのではないか。この番組を制作し放送するとすればこのタイミングしかないと感じました。特に小沢氏は民主党をやめて未来の党を作りました。私たちが思っていたのは、岩手の場合は小沢党かそうでないのかの選挙であって、小沢氏以外の人全員落選すると思っていました。

結果的に比例で畑さんが復活当選したことで、「王国の崩壊」ではなく「岐路に立った」とタイトルを変えました。この番組制作にあたってはすごい勇気がいりました。表現もすごく難しく悩みました。田口委員から反小沢の話ばかりで新小沢の話が少ないという意見がありましたが、私たちはかなり新小沢の話を入れたつもりでした。小沢氏をたたくような内容ではなく、小沢氏の良さも伝えなければならないし、バランスはかなりとったつもりです。

村田委員長) この番組を作った丹野さんからも感想をお聞きしたいです。

丹野アナ) 県政記者として普段取材をしていて、その延長として今回番組を作らせていただきました。当初の予定ではもっと密着してなんで小沢氏は被災地に来ないのかという県民の怒りに迫るような内容にしたいという気持ちはありました。取材を進めてみると予想以上に小沢氏に近づくのが難しく、小沢氏から離れていった側近の人たちに話を聞こうとしても、離れた彼らにとっても小沢氏に言及することは自分の命取りになると言われました。小沢王国崩壊と言いながらも小沢氏の影響力はいまだ岩手では健在で、番組を作ることの難しさを初めの段階から感じていました。そんな中でどう番組を構成するか、放送まで仕上げるといのは自分の中ですごく悩んだところでした。小沢グループから離反した黄川田氏を密着することで小沢氏に迫るようにしていこうと思いましたが、その黄川田氏も先ほど話した側近と一緒に、小沢氏について深い質問をすると答えられなくなりました。黄川田氏を軸に小沢氏を描く方法は、断念せざるを得ませんでした。黄川田氏が復興副大臣になったことも、密着を難しくしました。結果、直接の取材が少なくなりました。自分の中ではもっと取材をしたかったが、結果的に表面をなでるような内容にしかならなかったと振り返って感じます。今回小沢氏は当選しましたが、今岩手の政治にとって何が必要で県民が何を求めているのか、その一票の重みを受け止めてほしいし、小沢氏へのメッセージを伝えられたのかなと思います。

そのだ委員) 視聴者の反応は？

佐々木報道制作
局長) BPO（放送倫理・番組向上機構）に県内の視聴者から2

件ありました。小沢氏を悪く言いすぎているのではないかと。そのほかメールや電話でいくつかありました。

伊波報道制作
部長)

珍しいケースではありますが、放送前に意見をもらいました。内容についての問い合わせや先ほどのBPOへの意見などです。小沢氏をとりまく人たちのつながりを反映したような現象でした。ある特定のエリアの人たちにとっては放送前の番組宣伝の段階からかなり注目を浴びていました。そういう意味では難しさとそれに向き合った大きさというのがそこからも分かる番組でした。

佐々木報道制作
局長)

番宣でも小沢王国の崩壊とは一言も言っていません。なのに崩壊という言葉が一人歩きしたような質問を受けました。崩壊ではなく岐路に立ったという題名なのに。

長生取締役)

小沢王国が盤石ならそんな文句は言ってきません。まさに凋落しているというのが分かります。

村田委員長)

私は一関在住だし、県南です。水沢には友達が多いです。表には出ないけど水面下ではかなり影響が大きかったです。テレビの影響の大きさを改めて気づかされました。

佐々木報道制作
局長)

例えばキー局のテレ朝発で30分のドキュメント番組をやったら、もっとやりたい放題やと思います。しかし、私たちは岩手に住んで親小沢・反小沢の経営者の方々がお客さんであるし、視聴者でもあるので、岩手朝日テレビが著作制作であるならこの内容がギリギリだし、やれる範囲は限られていました。

村田委員長)

小沢一郎という人はまだまだ影響をもっていることが改めて分かりました。後何もなければ、この辺で終わりにしたいと思います。

柏葉事務局長)

民放のローカル局で政治ネタの番組を作るというのは少な

いので、そういう意味では多少コメントしづらいのは承知の上でみなさんからいろいろなご意見を聞きたく選びました。ありがとうございました。

村田委員長) 次回の開催についてお願いします。

柏葉事務局長) 次回は3月28日(木)午前11時からこちらの3F会議室で行います。合評課題は3月11日(月)午後4時54分～午後5時54分に放送する「IATスーパーJチャンネルスペシャル 震災から2年復興へ向けて」を合評課題とさせていただきます。ぜひご覧になって貴重なご意見を宜しくお願いします。

村田委員長) そのほか何かございますか?無ければこれで終わります。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置

ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表

朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。

9. その他の参考事項

特になし

10. 配布資料

- ◎ 3月単発番組編成予定表
- ◎ 2月岩手地区視聴率